

【立体横断施設技術基準・同解説】

【A 5判 98頁 本体価格 1,900円】

昭和54年1月20日初版第1刷発行

平成25年8月26日 第21刷発行

立体横断施設は、交通事故防止のため、昭和40年代に飛躍的にその整備促進が図られました。その後、利用者からの横断歩道橋の改善を求める声、地下横断歩道の積極的な設置など利用しやすい立体横断施設の整備に対する社会的要請が強くなっていました。

このような背景のもとで、立体横断施設整備の現状を見極め、立体横断施設の技術基準を実態に即したものに改めるべく、当協会の交通工学委員会において検討が進められました。

建設省は、同委員会に於ける成案をもとに取りまとめを行い「立体横断施設技術基準および道路標識設置基準について」（昭和53年3月22日都市局長・道路局長）として通達されました。

本書は、この基準の実施に当たっての運用、基準作成の背景等について解説したものであります。

なお、Ⅲ地下横断歩道編は、新たに基準として追加されたものであります。

目 次

I 設置基準編	
1. 総 則	3
1-1 目 的	3
1-2 立体横断施設の定義	4
1-3 立体横断施設の種類	4
2. 設置基準	5
2-1 車道を横断する立体横断施設の設置基準	5
2-1-1 単路または信号機のない交差点に設置する立体横断施設	5
2-1-2 信号交差点に設置する立体横断施設	13
2-1-3 その他立体横断施設を設置する場合	14
2-2 鉄道を横断する立体横断施設の設置基準	14
3. 設置要件	16
3-1 既存の路上横断施設との関連	16
3-2 形式の選定	16
3-3 横断者交通の処理	19
3-4 道路交通の安全に対する配慮	20
II 横断歩道橋編	
1. 適用範囲	23
2. 設計一般	25
2-1 建築限界	25
2-2 幅 員	25

2-3	形 式	28
2-4	けた下高さ	29
2-5	橋 脚	29
2-6	基 礎	30
2-7	昇 降 方 式	30
2-8	階 段	31
2-9	踊 り 場	32
2-10	手すり等	33
2-11	照 明	34
2-12	た わ み	34
2-13	振 動	35
2-14	色 彩	38
2-15	占用物件	38
3.	荷 重	38
3-1	荷重の種類	38
3-2	荷重の組合せ	39
3-3	死 荷 重	40
3-4	活 荷 重	41
3-5	高欄に作用する水平力	41
3-6	風 荷 重	42
3-7	温度変化の影響	43
3-8	地震の影響	43
3-9	雪 荷 重	50
3-10	支点移動の影響	50
3-11	衝突荷重	51
3-12	可動支承の摩擦係数	52
4.	許容応力度および許容支持力	52
4-1	鋼材およびコンクリートの許容応力度	52
4-2	基礎の許容支持力	53
4-3	直接基礎の転倒および滑動に対する安定	55
5.	構造細目	56
5-1	床 版	56
5-2	階段の踏み面およびけあげ面	56
5-3	路 面	57
5-4	地 覆	58
5-5	高 欄	58
5-6	鋼材の最小厚	59
5-7	部材の細長比	60
5-8	部材の連結	61
5-9	横 構	61

5-10 対 傾 構	62
5-11 アンカーボルト	63
5-12 安全施設	63
5-13 目かくし板等	64
6. 維持修繕	64
6-1 維持修繕	64
6-2 橋 歴 板	66
Ⅲ地下横断歩道編	
1. 適用範囲	69
2. 設計一般	70
2-1 建築限界	70
2-2 幅 員	71
2-3 標準内空断面	72
2-4 土 か ぶり	73
2-5 基礎の種類および形状	73
2-6 昇降方式	74
2-7 階 段	74
2-8 踊 り 場	74
2-9 手 す り 等	74
2-10 照 明	75
2-11 防 犯 施 設	76
2-12 案 内 板	76
3. 荷 重	77
3-1 荷重の種類および組合せ	77
3-2 死 荷 重	77
3-3 活 荷 重	78
3-4 土圧・水圧	79
3-5 活荷重の載荷方法	81
3-6 底面の地盤反力	83
4. 許容応力度および許容支持力	84
4-1 一 般	84
4-2 鉄 筋	84
4-3 コンクリート	85
4-4 基 礎	86
5. 構造細目	87
5-1 最小部材厚	87
5-2 階段の踏み面およびけあげ面	88
5-3 路 面	88
5-4 防 水 工	89
5-5 排 水	91

5-6	ハンチ	92
5-7	伸縮継目	93
5-8	内装	93
5-9	照明設備	94
5-10	出入口	94
6.	施工	95
7.	維持修繕	97
8.	防犯	98